

ビジネスを通じた貧困問題解決

－ インドの現場より －



2014年11月18日

藤田 周子

Ziqitza Health Care Ltd.

2002年、5人の若者がインド救命救急の実態に注目した。



- **高い交通事故発生率**：世界平均は自動車1,000台あたり0.75件。インドは1,000台あたり16件（21倍）。
- 交通事故による死亡者のうち、20%が現場で死亡、50%が入院後5日以内に死亡、そして**30%が搬送中・搬送待ちの間に死亡**。
- 救急車は病院やNGOが数台ずつ保有・運営するもの（患者は個別に連絡、手配しなければならない）



「誰もが利用できる救急車サービスを立ち上げよう」

厳しい市場環境

一般的に救急車に対する信頼が低い。

- 「119」のような共通電話番号の不在
- 不十分な機材、乗務員のスキル不足
- 応急処置の知識を持つ人が少ない
- 到着までに時間がかかる
- 救急車の90%が遺体搬送に使われる

そのため、緊急時に救急車を呼ぼうと考えるインド人は少ない。

むしろ、オートリキシャやタクシーなど本来安全性の低い手段を選ぶ人が多い。

Dial 1298 民間有料救急車サービス



Pay-per-use モデル：行先の病院と走行距離によって異なる料金体系。事故被害者は無料、貧困層は割引

Dial 108 民間委託公共救急車サービス

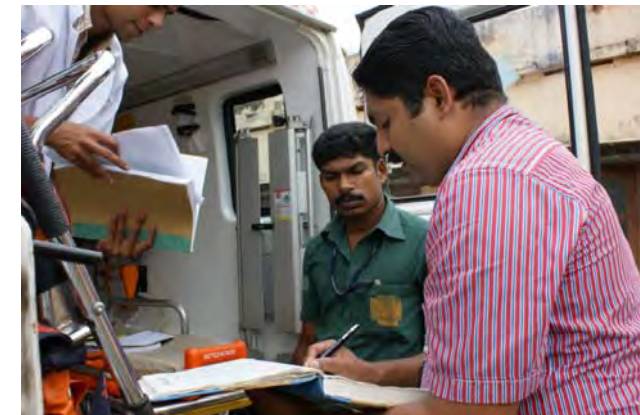


PPPモデル：州政府が民間企業に運営委託。利用料金は無料（一部の州で有料）

まず民間がビジネスモデルが成り立つことを証明し、その後政府が公共サービスへスケールアップ

2010-2011年 急成長の年

- 州政府からの受託が増え、急成長
 - 救急車 53台から460台へ
 - 年間患者数 425人から2,059人へ
 - 年間コール 1.5万件から22万件超へ
- 当時のチャレンジ：サービスの質を維持
 - 人材採用・育成
 - オペレーションの標準化
 - 業務マニュアルやIT基盤の整備



Source: Ziqitza Health Care Ltd.

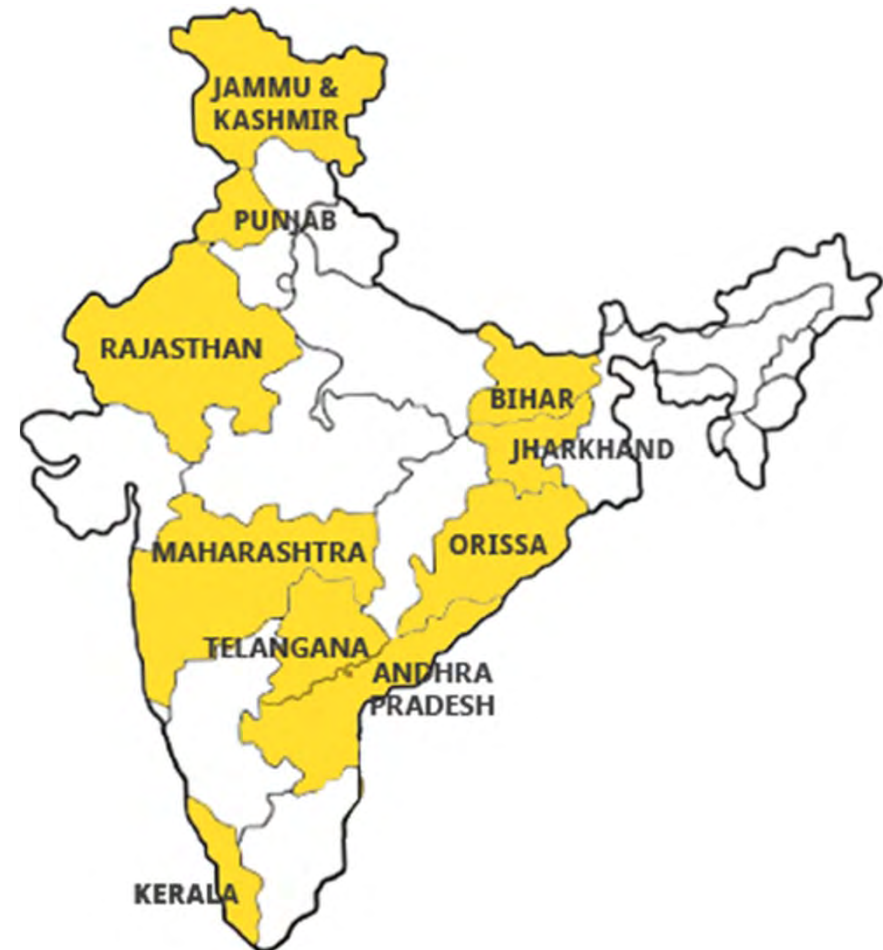
社会へのインパクト

現在インド国内17州で計1,000台の救急車を運営

主な事業地域

- Dial 1298 Ambulance ... 5州
- Dial 108/102 Ambulance ... 3州
- Dial 1033 Highway Ambulance ... 3州
- Helpline ... 2州
- Mobile Medical Units ... 3州

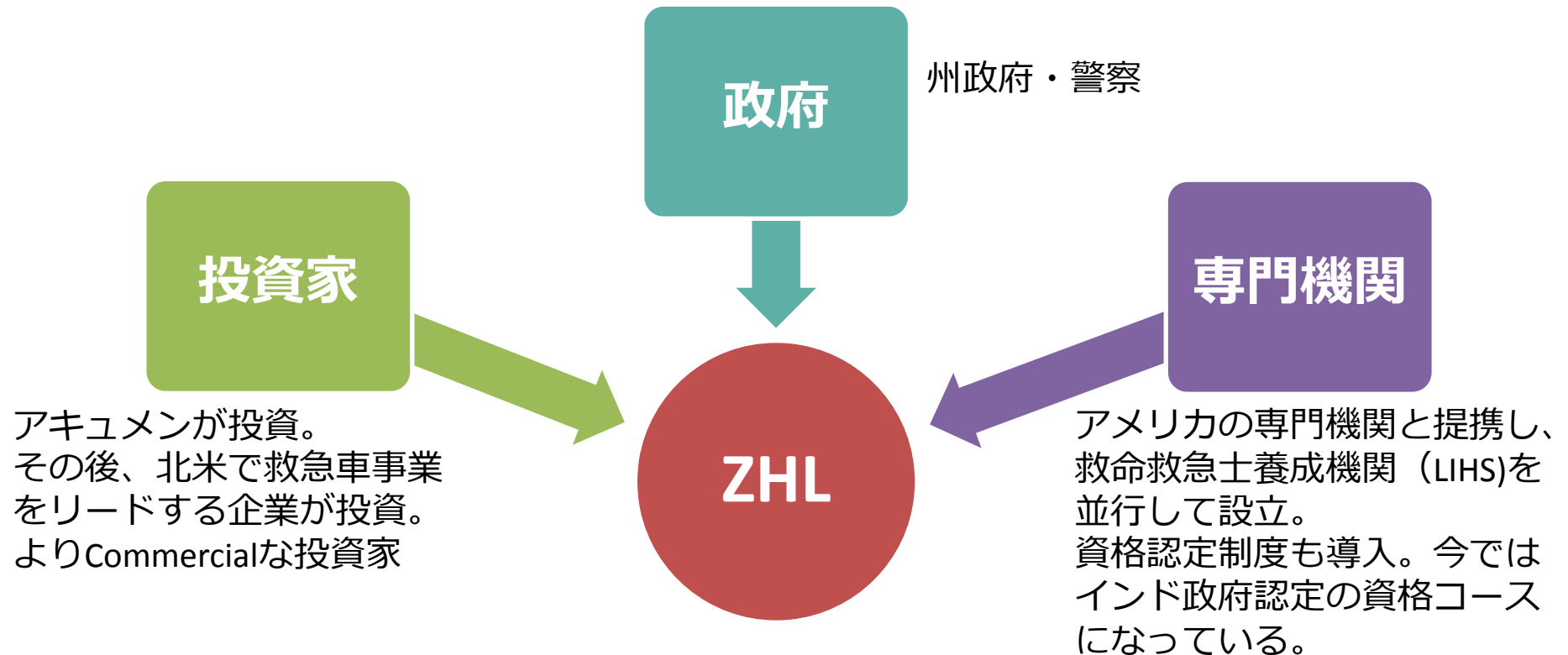
- **累計患者 約335万人**
 - 妊婦 86万人
 - 救急車内での出産件数 8,230



Source: Ziqitza Health Care Ltd.

官民・国内外さまざまな連携を経て成長

- まず専門機関と連携して、サービスの質を確保
- 次にパブリックセクターと連携することで、事業規模を拡大。また、利用者に占める貧困層の割合も増加
- 民間企業のマーケティング予算やCSR予算も確保



Source: Ziqitza Health Care Ltd.



©Chikako Fujita

インドの電化状況

全人口の7割（8億人）が住む
農村部での電化率が低い

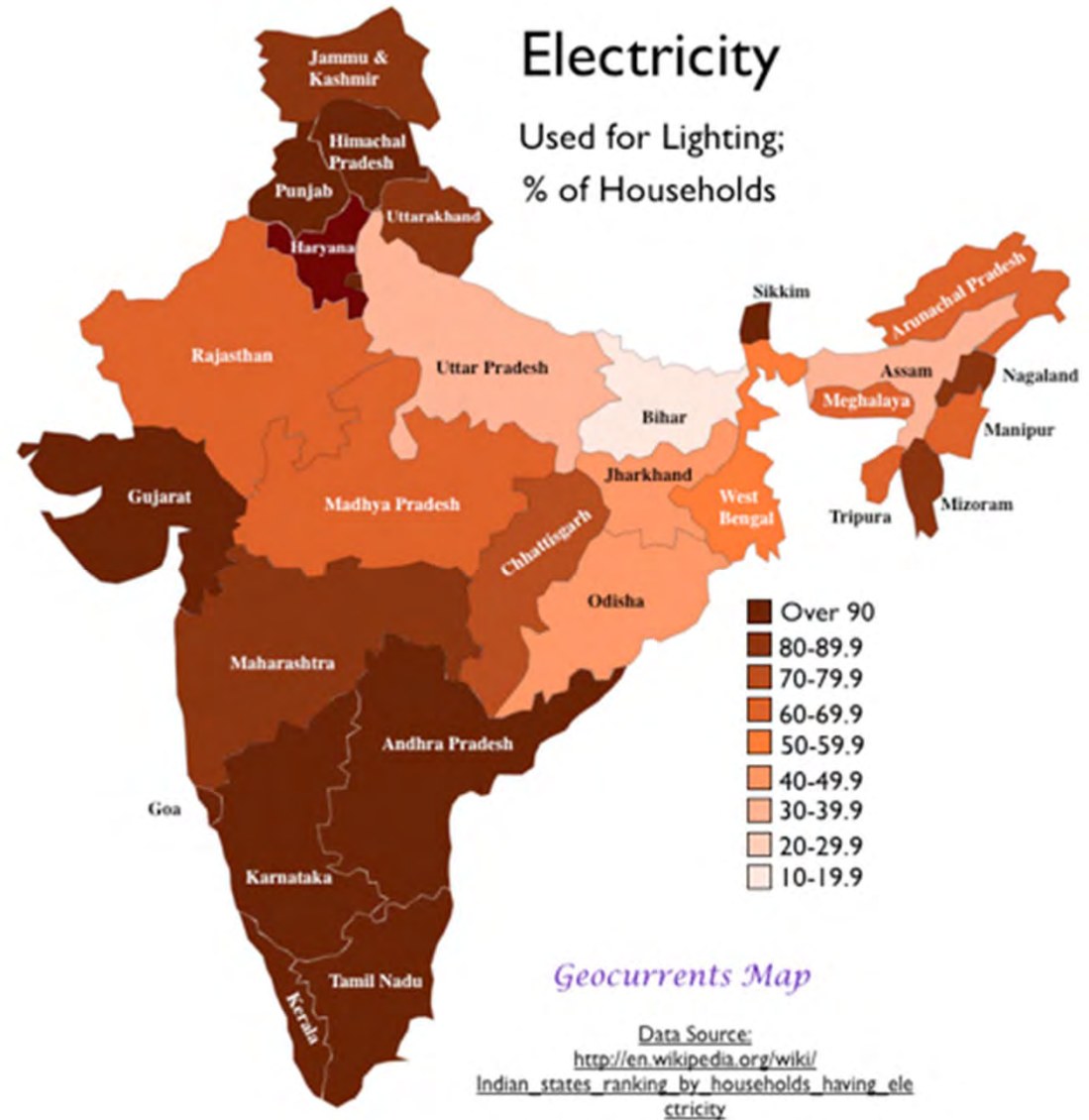
電化世帯比率

- 全国 ... 67%
- 都市部 ... 93%
- 農村部 ... 55%

非電化世帯数

- 全国 ... 8,000万
- 都市部 ... 500万
- 農村部 ... 7,500万

(2011年統計)



無電化地域のエネルギー事情

灯油ランプ



手製・簡易灯油ランプ



薪や牛糞で調理



©Chikako Fujita



Arc Finance

- Changing Lives Through Energy and Finance -

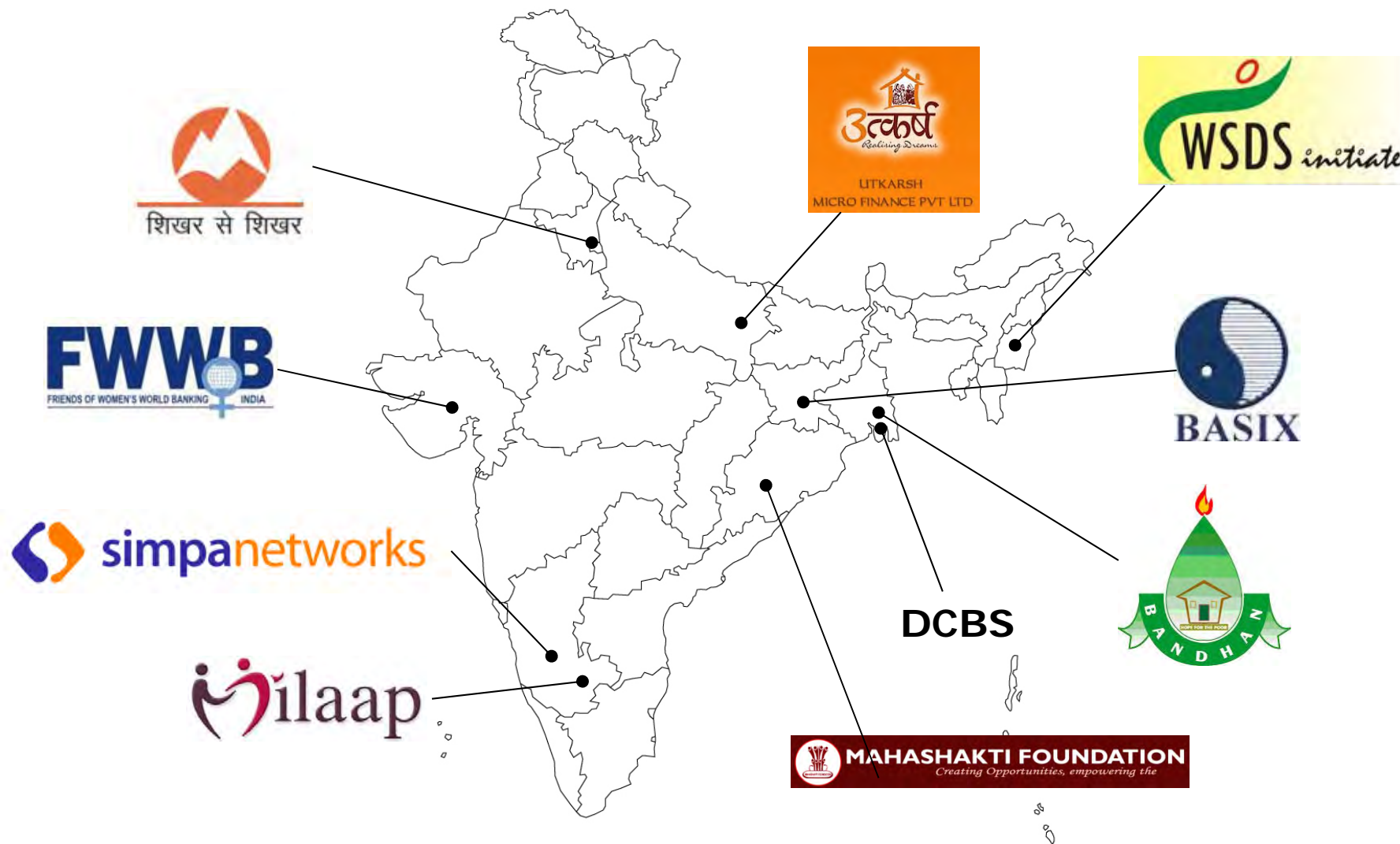
- 米国非営利団体（本部：ニューヨーク）
- 主な活動は、貧困層のエネルギー・水アクセスの改善につながるファイナンスモデルの導入支援、促進
 - 特に企業が新しいモデルを設計、試験導入して “Proof of Concept” を行う過程を支援
- 現在、インド、ウガンダ、ハイチ等世界各地で現地企業を支援中



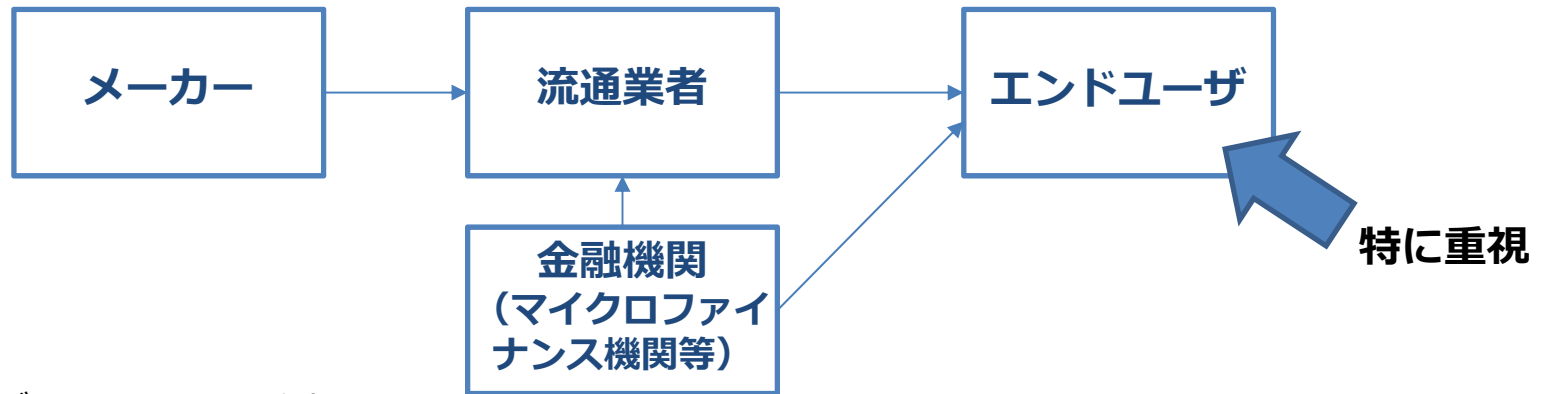
©Arc Finance

11

Arc Finance: インドにおける支援先



バリューチェーンの各プレイヤーがファイナンスを必要としている



エンドユーザファイナンス手法

マイクロファイナンス	<ul style="list-style-type: none"> マイクロファイナンス機関等による、エネルギー製品購入用の少額ローン
マイクロリース	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー製品マイクロファイナンス機関等による、エネルギー製品のリース
Pay As You Go システム	<ul style="list-style-type: none"> エンドユーザは使う電力分だけ前払い 機器代に相当する額を払い終わると、所有権がユーザに
出稼ぎ者による送金	<ul style="list-style-type: none"> 出稼ぎ労働者が仕送りの一部を使ってエネルギー製品を購入し、家族に送付
コミュニティファイナンス	<ul style="list-style-type: none"> マイクログリッドなど、コミュニティが所有・運営するエネルギーサービス

社会へのインパクト

- 過去2年弱で計18,000世帯以上がクリーンエネルギーを使い始めた
- ソーラーランタン用ローン：12,000件
 - 返済率100%
 - 女性99.9%
- 社会的インパクト
 - 労働時間の増加
 - 生産性の向上
 - 子どもの勉強時間増加
 - 気管支炎などの健康被害削減
 - やけど、火事などの事故削減
 - 安全な夜間外出が可能
 - CO2排出量の削減



社会へのインパクト

- 例. ラストマイルのマーケティング・販売員として、Village-level Entrepreneur (VLE) を育成。
 - 中でも、ソーラーランタンのようなシンプル且つ社会的インパクトの大きい製品では、女性が活躍



エコシステム醸成のために多数機関と連携

資金調達	品質・サプライチェーン
<ul style="list-style-type: none">• 援助機関（USAID等）• 財団• インパクト投資ファンド• インド国内の銀行（マイクロファイナンス機関への融資）• 民間企業CSR予算• クラウドファンディング	<ul style="list-style-type: none">• ソーラーランタンメーカー（ベンチャー、多国籍企業）• マイクログリッドシステムインテグレーター（ベンチャー、多国籍企業）• 流通業者

啓蒙・リサーチ・標準化	
<ul style="list-style-type: none">• 国際機関（IFC Lighting Asia等）• 援助機関（USAID、GIZ等）	<ul style="list-style-type: none">• 民間シンクタンク